

## ■学校経営のポイント

### 学校評価を生かした教育課程の編成

小島 宏

次年度の教育課程の編成を、教育課程の改善のみならず教員のモラルの向上にもつなげたい。そのためには、教員に作業目的を明確に持たせ、効率的に行動させ、教育課程の改善を形として見えるようにすることが重要である。

#### 学校評価(自己評価)の整理

本年度の教育課程のPDCA(編成、実施、評価、改善)を整理することが大切である。その際、直感や印象をできるだけ排除し、目標実現の程度によって次のように分類整理し、確認し、改善につなげることが必要である。

- A 達成できた。(どうしたからうまくいったのかわかるだけ明確にし、さらなる充実につなげる)
- B 概ね達成したが、課題がある。(課題の内容や要因を特定し、改善工夫につなげる)
- C 不足した・欠落していることがある。(効果が期待できれば新規の導入を検討する)
- D 不必要なことがある。(無理、無駄、不必要、実現不能、マンネリ化を廃止する)

#### 教育課程届の編成

教育委員会に提出する「教育課程届」の内容(1. 学校の教育目標の設定及び年度の重点目標、2. 教育目標を達成するための基本方針、3. 各教科・道徳・外国語活動〈小学校〉・総合的な学習の時間・特別活動の指導の重点、4. 生徒指導、5. 進路指導〈キャリア教育〉、6. 特色ある教育活動、7. 授業日数及び授業時数の配当、8. 年間学校行事予定、など)に即して、学校評価の結果を生かして作成すると効果的且つ効率的である。

その際、上記A B C Dの視点から検討し、「よりよく続ける」「改善工夫する」「影響がなければ取りやめる」「効果が期待できれば新規に導入する」ことを進めるようにする。

また、校長が編成方針を示し、編成計画と最終の取りまとめは教務主任(教務部)が担当することになるが、編成の過程では全教員が校務分掌の関係する部分を担当して進めることが、学校運営や教育活動の充実の視点から重要である。

教育課程の編成は、教育委員会と学校の間のことで教務主任(教務部)の仕事、「私たちは教科書にしたがって授業を進めればよい」と思い込んでいる教員の意識を変えることが重要である。ただし、この作業が、教員の多忙感を増幅することにならないよう計画的・効率的に進める配慮が必要である。

#### 全体計画の作成

「教育課程届」を実質的な教育課程編成とするためには、道徳教育の全体計画、体育の全体計画、総合的な学習の全体計画、特別活動の全体計画、キャリア(情報、環境など)教育の全体計画などの作成で、構造化することも必要である。

#### 指導計画・評価計画の作成

教育課程の実施のためには、教科等別・学年別・単元別「指導計画・評価計画」の作成が不可欠である。とりあえず何らかの参考例を手がかりに作成して出発したものを、次年度に向けて、児童生徒の実態や実績を加味して、自校流に改善していくことが求められる。

#### 年間指導計画や実施計画の作成

また、教員の共通理解のもと効果的に指導を進めるためには、例えば、生徒指導については年間指導計画が必要であるし、学校行事や特色ある教育活動などについては実施計画が必要である。

これらについても学校評価の結果や新しい動きなどを踏まえて、具体的に改善工夫していくことが求められる。

(こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長)

●できる教務主任必携の“読む”手帳! 3月22日刊, 予約受付中!

## 『教務主任の仕事〈基本手帳〉』

【編】小島宏(一般財団法人教育調査研究所研究部長) 四六判変型・約180頁/定価1995円